

‘土佐文旦’実生「90T9」の特性

矢野臣祐・田中満稔・小原敬弘・谷岡英明

Characteristics of 「90T9」 Developed from Open-Pollinated

Seedlings of ‘Tosabuntan’

Shinsuke YANO, Mitsutoshi TANAKA, Norihiro OHARA and Hideaki TANIOKA

要 約

無核性を持つブンタン系統「90T9」を育成した。「90T9」は、「土佐文旦」の自然交雑実生で、露地栽培において次のような特性を示す。

1. 樹勢は強く、樹姿は直立性である。春葉にはうねりがあり、垂主枝全体の葉が激しく黄化する現象がまれに認められる。
2. 果実の外観は「土佐文旦」に似るが、大きさはやや小さい。
3. 糖度計示度は「土佐文旦」と同程度であるが、クエン酸含量は低い。12月中旬の収穫時において、既に生理的なす上がりが認められる。
4. 単為結果性が認められ、他品種の花粉を人工受粉しても種子数は非常に少なく、完全種子は1果あたり0.4個、不完全種子は0.9個程度である。
5. 無核果となる要因は、平均で1子房あたり0.6個と胚珠数が極端に少ないためで、既存のカンキツ品種にはない不稔性を示す。
6. 花粉は稔性を持つが、「はやさき」とは不親和がみられる。

キーワード：雌性不稔，無核，無胚珠，ブンタン